

「獣医畜産新報」の足跡

会社の沿革：1930年に東京・麻布で獣医畜産図書の出版および販売業を開始。第二次世界大戦中の企業整備のための廃業，統合会社設立を経て，1947年3月に東京・文京区本郷で獣医畜産図書の出版および販売を再開。そして翌1948年に本誌を発刊。1951年に株式会社文永堂設立。1981年に株式会社文永堂から出版部が分離独立し，文永堂出版株式会社が設立される。

敬称略。所属・肩書は当時のもの

	2月20日に「畜産獣醫月報」（2月号）を創刊。全8頁。文永堂書店発行。編集人・発行人とも永井富五郎。 定価は1部5円で，年間購読料は送料を含めて70円。 創刊号の内容は，以下の通り。 「家畜内科診療の實際」安田純夫（東芝生物理科学研究所） 「化学療法より見た脳脊髄絲状蟲症」小堀 進（東京獣醫畜産専門學校） 「腦膜腦炎に就きて」五十嵐彌吉・尾澤基男（岐阜市 武藤獸醫科診療所） 「壯馬の寄生性腰麻痺症と吐瀉石に依る治驗」橘 勝一（兵庫県） 「地方畜産末端機構の改革」河野洋曹（広島県） 「海外文献」白井紅白，時事解説，人事 9月号より編集人が白井恒三郎（紅白）に。
1948年	
1949年	7月1日号より月2回発行（1日，15日発行）に。同時に誌名を「獣医畜産新報」に変更。
1965年	11月1日号より誌名の漢字が「獣医畜産新報」に変更。
1971年	10月15日号で，初めてカラー頁を収載（米倉督雄 著 皮膚疾患の論文の図）。
1976年	1月号より月刊誌になった。70頁。
1981年	9月号より発行元が文永堂出版に変更。11月号より編集人が山田 實に。 1月号より特集を掲載。1回目の特集は「イヌ・パルボウイルス感染症をめぐって」。 「まえがき」小西信一郎（東京大学） 「発生と疫学」平沢 勉（東京大学） 「疾病と発病」畔高政行（東京大学）
1984年	「病理－腸粘膜病変を中心に－」土井邦雄（東京大学） 「診断」竹内 啓（東京大学） 「治療」竹内 啓（東京大学） 「予防と防疫」安食政幸（株式会社微生物化学研究所） 6月号より連載「What Is Your Diagnosis」（加藤 元）を開始（「症例シリーズ」に続く）。
1987年	1月号より発行人が永井富久に。
1988年	1月号より編集委員会を設置。投稿原稿の審査が始まる。
1989年	9月号より編集人が松本 晶に。
1990年	8月号より連載「小動物・血液，骨髓塗抹検査シリーズ」（石田卓夫）を開始（「小動物・細胞診シリーズ」，「新 小動物・細胞診シリーズ」に続く）。
	リージョナル・アドバイザー（地域編集員）をおく（2001年まで）。
1992年	4月号より判型が現在のA4変形となる。 12月号より連載「寄生虫ライフサイクル図鑑」（深瀬 徹）を開始（深瀬先生はその後「亀の生物学」，「あんなペット・こんなペット」，「薬話」，「いま，この人に会いたい！ 獣医界の巨人と奇人を尋ねて」の連載を掲載）。
1993年	4月号より連載「Easy English of Vets」（一般社団法人アニマル・リテラシー総研）を開始。 10月号より連載「犬と猫のあんな病気こんな病気」（後藤直彰）開始。
1994年	フォトコンテストが始まる（2010年まで）
1997年	9月号より連載「小動物診療のための臨床薬理学」（尾崎 博，西村亮平）を開始（2001年12月号まで）。
1999年	連載「随想 カラスの飼育日記より」（浦川紀元）を開始（6～9月号と2000年2～7月号）。

	2月号より連載「世界の動物薬市場の動向」(秦 敦朗)を開始。
2003年	2月号より連載「小動物の超音波診断」(茅沼秀樹)を開始(「小動物の画像診断」に続く)。
	5月号より連載「いきもの散歩道 ー動物行動学からみた生物の世界ー」(菊水健史)を開始。
2004年	11月号で通巻 1,000 号となる。
2005年	7月号よりカレンダーを掲載(文:深瀬 徹)
2008年	8月号より連載「タスマニアの野生動物問題とその解決に挑む専門家たち」(羽山伸一)を開始(2009年1月号まで)
2009年	1月号より連載「くにかず & ひろこの ほっとひといき」(清水邦一, 清水宏子 写真・光川十洋)を開始。
2010年	1月号より連載「人と家畜のエピソード」(池谷和信)を開始。
	2月号より発行人が福 毅に。
2015年	4月号より連載「病理学的変化を読み解く」(内田和幸)を開始。
	4月号より連載「蔵六庵主人の古物稀物拾遺」(蔵六庵主人)を開始。
2016年	9月号より連載「繁殖用超音波機器で始める牛の消化管疾患の超音波画像診断」(水谷 尚)を開始。
2018年	10月号に最後の特集「犬のニキビダニ症」を掲載。
連載は現執筆陣および編集委員の先生方のものをピックアップしています。	



1950年通巻40号の誌面より

(昭和27年7月7日) 毎月1日・15日発行 獣医畜産新報 第98号 昭和27年11月1日発行

体質改変水剤

骨軟症・クル病・各種貧血・寄生虫症・痙攣や腹痛症の後療法、慢性消化器障害、駆虫後の後療法、頑固な非寄生性皮膚病
動物用100cc(10日分) ¥150

ポンズール

三酸化砒素.....7.2%
炭酸水素カリウム.....5.7%
本剤50ccを水300ccに混和し、銚口又は飼槽に添加して内服
タイガー製薬株式会社
東京都世田谷区三軒茶屋町81

フィラルゼン

犬の心臓糸虫に...
デクロールフェナールミン塩酸塩主剤
(砒素系新注射薬) (本誌51号参照)
【包装】 0.04G 3 A 滅菌水 3 A ¥250
劇効的新薬
馬用 新型
村越式開口器
安全堅実操作簡便 ¥1,600
発売元
中央獣醫藥器材株式会社
東京都千代田区代官町二番地

乳房炎の治療に!!

牛 マスチオール
100cc 500cc
!! 寄生虫の駆除に!!
月家 ベルミン
100g 500g
藤田製薬株式会社
東京都品川区上大崎二ノ五十六

馬の駆虫なら

ネオパテヂノール
PARAZINOL
(成分) 四塩化炭素
二硫化炭素
流動パラフィン
(包装) 400瓦 罐詰
東京府中野区西町六 現代製薬株式会社

1952年通巻98号の裏表紙